

卒論・修論を L^AT_EX で書く

弘前大学理工学部地球環境防災学科
学籍番号 名前

2020 年吉日

目次

はじめに

最初はイントロ的なことを書く。

1 現状と問題点

最近の現状と問題点とか。

2 解決策の提案

こうしたらいい, とか。

3 数式の書き方

アインシュタイン方程式は以下の通りである。

$$R_{\mu\nu} - \frac{1}{2}g_{\mu\nu}R = \frac{8\pi G}{c^2}T_{\mu\nu} \quad (1)$$

つぎに

この辺から本番。

4 文献の引用の仕方

データは参考文献 [?] にあったものを使った。この文献 [?] も参考にした。

5 図の挿入の仕方

図 1 サイン関数のグラフ

最後に

結論とか、まとめとか。最後にいうのもなんだが、ベクトルの書き方。

- 普通の α は `\alpha` で書く。
- `$\vec{\alpha}$` で $\vec{\alpha}$
- `\usepackage{bm}` している場合は `$\bm{\alpha}$` で α
- 並べると, $\alpha, \vec{\alpha}, \alpha$

*謝辞

謝辞には第何章とかの番号をつけなくてもよいので, そんなときは, `\chapter*{ }` という具合に書きます。

みなさん, ありがとう. (普通の人が見るのは, イントロと謝辞だけ... という説もあるから, 忘れないで書く.)

付録があるときはプログラム文とかを書いてページ数を稼ぎたいときは, 以下のように

してみます。

```
#include <iostream>
using namespace std;
int main() {
    for(int i = 1; i <= 5; i++) {
        cout << "こんにちは, C++ の世界!   " << i << endl;
    }
    return 0;
}
```

\usepackage{ascmac}して screen 環境を使うと, 枠がつきます。

```
#include <iostream>
using namespace std;
int main() {
    for(int i = 1; i <= 5; i++) {
        cout << "こんにちは, C++ の世界!   " << i << endl;
    }
    return 0;
}
```

参考文献

- [1] 国立天文台編, 理科年表 (丸善)
- [2] 天文年鑑, 誠文堂新光社。